

「創造性を考える教育シンポジウム」 アンケート集計

- 開催日：2017年3月4日（土）12時30分～17時
- 会場：聖心女子大学 宮代ホール

参加者数：企業関係	40名
学校関係者	67名
学生	9名
合計	116名

アンケート回収数：69（回収率：59.5%）

「脳は出会いで育つ。体験・感動・身体性」

小泉 英明 氏

日立製作所役員待遇フェロー・理学博士・脳科学者

「造形遊びと創造性の育成」

水島 尚喜 氏

聖心女子大学 文学部教育学科教授

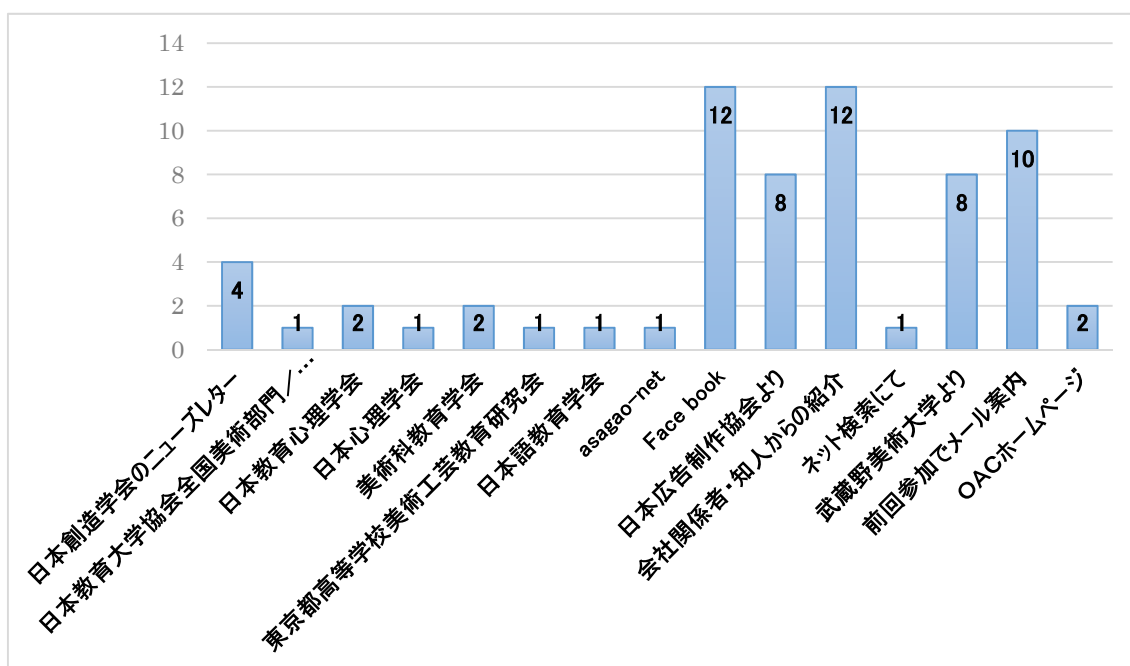
「発想する底力の育み方」

中村 隆紀 氏

博報堂生活者アカデミー ゼネラルプロデューサー

講演者によるパネルディスカッション・質疑応答

1. この会をどこでお知りになりましたか？



2. 開催時期に関して

69名中、2名の方がこの時期以外を希望し、他67名の方が適当と回答。
なお、4名の方から意見をいただきました。

- 教員(現職)が多いのであれば、長期休暇中であると遠方からの参加もしやすいのでは。
- 小・中学校関係は3月に入ると参加しにくいかも。
- 今日3月4日が卒業式だったので、遅れて参加した
- 入試の時期や各大学の教育関係イベントの開催日程を考慮すると、2月・3月は妥当かと思う

3. この会に参加された理由は？

- 次期学習指導要領でも、高校・大学では学力の3要素として「創造性の育成」も視野に入れており、その一つの方策として芸術教育においてどのような課題があるのか、現状がどうなっているのか、企業としての取組み事例があるのか知りたく参加。
- テーマに興味があり、デザイン教育に役立つと思ったから
- 小泉氏の講演が聞きたかったのでは

- 「教育」・「創造性」という言葉に惹かれて
- ホームページで昨年の記事を見て興味をもった
- 「創造性を育む」のフレーズに惹かれて
- 創造教育を専門にしているので
- 創造性・脳科学について学びたく
- 学校関係者だが、他業界や企業の方の考え方がわかり、視野が広がるので
- 様々な立場の方の「創造性」の考え方が聞けるので
- 美術教育のヒントになりそうなので
- クリエイティビティについて考えてみたく
- 教育に関わるものとして、「創造性」に興味があるので
- 語学教育における創造性について興味があるので
- 創造性教育に興味関心があるので
- 美術教育の創造性に意識して取り組んでいるので
- 創造と発想の教育に興味があるので
- 教育委員会主催の研修より勉強になるので
- 全国的にも、東京でも美術の専任教師が高校から消えています。東京都では進学を目指す学校ほど、美術・芸術が軽視されつつある現状です。違う発想で、美術の授業を捉える必要性を感じたので
- 学生への指導のヒントになると思ったので
- 第一回目から参加させていただいています。美術教育を守るには、学校現場だけでは限界があるので
- 今後の教育指導を充実させたいので
- タイトルと内容、また Face book などでシェアされていた皆さんが、尊敬している先生方なので
- テーマに興味を惹かれたのと、自分の子育てのヒントになればと思い
- これからの美術教育について知見が得られればと思い

- アートと人間、その関係を探求したく
- 第一回にも参加。二年前より特別支援学校で講師をしているが、生徒にどういう考え方をもちて教えたらいいか、ヒントがほしい。また個人的にデザインとかクリエイティブ分野に関心があるので
- 美術教育に関する講演に興味があり、また教職を目指しているので
- 研究への新たな視点を得られたらと
- 春から教員になるので、ぜひ聴いておこうと思った
- 広告業界や創造力に興味があったので
- 美大に通う学生として、大人が美術教育やデザインの有用性をどう考えているのか知りたかった。また今の美術教育への不信感が強くあるのだが、そもそも美術教育の意義など伺いたかったので
- 子ども・学生の生き方の選択肢というものに興味があるので
- 毎年参加している。強い関心がある。
- 子どもの創造性について学び、考えたいので
- 幼稚園・保育園の美術改革を進めているので
- 創造人の育成の重要性のため
- たまたま今、行っている仕事に関連したテーマだったので
- 脳の働きと創造力、発想などについて知りたかった。特に、社会で必要とされる創造力
- 普段聴くことのできない内容なので

4. 小泉英明氏の講演について

- 意識下を育むことの大切さ（芸術教育の重要性）ということがわかった
- 新しい皮質を活性化させるためには、古い皮質も重要であること。論理的に考える前提として、生存的な活動が必要であるという説明に、新たな視点を学ばせていただいた。
- 人間の脳の可能性を感じた。
- 人間の根本からのお話で、説得力があった。つまるところは“情熱”と言われたことに感動。
- 脳の報酬系の活動状態への言及は大変興味深かった
- 脳梁の話（アインシュタイン）、もっと詳しく聞きたくなった
- 「意欲・やる気」は教育の中での普遍的なテーマ。幸福になる人が Grit(気概・気骨・やりぬく力)に基づくのなら、それはいつ、どのように育まれるのか。それが「古い皮質」を育むことにあり、それには芸術教育は良いと実感できました。
- 「未来を考えられるのが人間」、更に脳科学的アプローチからの視点を知りたくなった
- 昨年に引き続き、脳科学の視点からのお話は興味深く、参考になった
- 「快」の話を聴いて、過去の報酬体験が弱いと、未来への希望は少なくなるのかと思った。また他人への高評価を聞いて、マイナスの反応をするのは衝撃的だった。
- 人間の動物的な本質について理解できた
- 美大で学んできた私にとって、脳科学から教育に関するお話が聴けたのは刺激的な機会でした。最後の“日本の学生の科学への「意欲」と「興味」は世界の最低水準というのが印象に残りました。
- ナメクジウオの遺伝子の60%はヒトと共通と、初めて知り驚きでした。
- 脳科学の色々な研究からのお話しが聴け、とても良かった。特に意識下の話しは、心に響きました。わが子が通う幼稚園でも、「ひらがなが書ける」・「数字が読める」などに評価がいく現状に違和感を覚えていましたが、私の抱えていた違和感は意識上だけに目を向けることへの違和感だったんですね。意識下の「意欲」や「思いやり」からくる、想像力、その想うものをカタチにする創造力のある脳を育てていけたらと、思いました。
- 脳の仕組み等、初めて知ることばかりで面白かった。「意識下」の教育をどうしていけばいいか、考えていきたいと思いました。

- 赤ちゃんからの過程が大変興味深く、あらためて先生の本をじっくり読ませていただきたいと思います。昨日、友人の11か月の赤ちゃんに会う機会があり、友人は「生まれたころは、自分の手も自分のものと認識してないみたいで、何度も手をかざして見ていた。10か月たって、頭存在に気付いたのか、自分の頭をたたいていたの」と、聞いたばかりだったので、「生きるとは手をのばすこと」のお話しに心が響きました。
- 意識下の重要性は理解できた。それをどう育てるのか、また何をしてはいけないのか。その辺りの話しも聞きたかった。
- 人類の歴史はたかだか700万年。地球的な歴史の中で社会を考えていくべきと感じた
- 内容が深く、興味深かったので、もう少し時間をとってほしかった
- 創造性がなければ、分析力・理論的な行動が駆動しない、というお話はヒントになった
- 新しい皮質だけ育てても、蔵書ばかりたまって閲覧者のいない図書館という話は印象に残った。ぜひ著書を読ませていただきます
- 身体性を大事にした教育を展開できるよう、日々の授業改善に努めます
- 右脳と左脳をつなぐ活動（授業）を意識して組み立てたいと思いました
- 「アートの子カラ」といった抽象的なことではなく、科学的に証明することが今後必要と思いました
- 統合していく脳に、創造性を教育の中で開発していけるのだと改めて思った
- 創造性の拡大は「内的情動」が大事だという心理学的知見が脳科学につながっているのを再確認した。また子育て中の母親としてもうなずくポイントだった。
- 第二言語の習得研究において、これまで「感情」は研究のメインではありませんでしたが、脳科学研究によって「感情」が学習の根本にあることをあらためて認識できた
- 新しい研究の成果も伺えて、興味深かった
- 意識下を育むことが大切という話が、いまの教育界の流れに根拠を与えてくれるように感じました。
- 脳のメカニズムを知ることで、知的障害を持つ子どもたちへの理解が深まると思えた
- 進化の観点でヒトをみる面白さを感じた。「生きるとは手をのばすこと・・・幼子の指がプーさんの鼻をつかむ」良い句ですね。
- 体験をするにも母親への「愛着」があつてのもの。保育士を目指す学生に伝えます。
- 「体験・経験」の重要性をあらためて実感しました
- 普段のものの見方を、別の視点の捉えるヒントがたくさんありました

5. 水島尚喜氏の講演について

- 突然ギター漫談か・・・と思いましたが、教室の空気をつくるのには有効そうですね。羽仁進監督の「絵を描く子どもたち」(1956年、岩波映画)、最後まで観たくなくなってしまいました。本論からずれますが、1988年くらいにアメリカフィラデルフィア州のブリースタッチミュージアムにたくさん出かけました。

<http://www.pleasetouchmuseum.org/>

日本ではなかなか定着しないプログラムなのかな。

- レミダ（イタリアレッジョエミアにある、創造的活動を支える廃材などの素材倉庫）のようなところが日本にもあるといいのに。ブルーナ・ムナーリの美術教育についても伺いたかった
- 素材との出会いが思わぬ創造性を生み出せるレミダ。日本の公教育にもあれば・・・
- はじめ、ギターで歌ったのがよかった。やはりそれで子どもたちの心や脳が変化する
- 最初の歌、とても素敵でした。先生が歌っているときに、手拍子出来ない、リズムに乗らない、そんな大人から変わらなければならないのでは・・・？そしてリズムに乗ることを恥ずかしがらず、表現できる大人が増えたらいいなと思いました。
- 歌のパフォーマンスは良いが、ご本人も仰っていましたが盛込みすぎてポイントが少しわかりにくかった。もう少し「造形遊び」について触れてほしかった。
- ボローニャの事例は興味深かった
- 教育の現場、芸術の現場、場のチカラって大事ですね
- 教育方針について年度ごとに紹介され、時代ごとに何を求めているかわかりました
- 素材のもつ重要性、先生側も材料を知る勉強を続けるべきと感じた
- そもそも、使用する素材に対して感動することもあるし、重要だと感じた
- 小泉さんのお話の後で、教育者の視点でのお話し。色々リンクしているのではっとさせられた。特に体感して学んでいくこと、それが創造的な学習につながる。あらためて言葉にされて共感しました。
- 小泉さんの脳の話しとつながり、古い皮質への働きかけのヒントとなった。感じとるチカラをつける必要性も感じた。
- 思わず創造したくなる環境をつくることをもっと考えていきたいと思う

- 図画工作における学校現場の差が大きいと感じました。レミダが広まったら面白い
- ここでまたセンスオブワンダーという言葉に出会ってしまった。プリコラージュ（あるものでつくる）、いま自分にあるものはなんだろう、ないものはなんだろう。いままで得てきた自己内の財産を見直し、何が提供できるか考え直そうと思った
- 戦後の学習指導要綱の変遷がよくわかりました。これからの教育は学習に対する態度をいかに育てるかだと思いました
- 歴史とともに創造性の捉え方が変わってきており、やはり現在より厳しく、貧しかったであろう戦後は「子どもの創造性」っていまより「宝」だったんだなあと思いました。
- イタリアの「レミダ」興味深かった。素材の面白さに気付かせる、それも創造の原点だと思う。いまここから、次年度の美術授業の発想をふくらませることができた。
- レッジョ・エミリア・アプローチはなぜ10年停まっているのでしょうか。レミダを日本で展開できるのでしょうか。
- 小学校で「造形遊び」を取り入れています。周囲の理解は得られにくい部分もありますが、勇気をもって細く長く継続しようと思います。
- 美術教育の観点から「造形を通した発想とは」について、体験を通した話で腑に落ちた
- 素材のディスプレイの重要性、効果を感じた
- 幼稚園教師の養成校の講師の立場で、シラバスをイメージしながら参考になった
- ものづくりが、人を豊かにする。共感できました。
- レミダの存在に興味をもった。廃材やモノのあふれる日本に、モノを見つめ直し、活かし、気付かせるには良い施設だと思います。
- 図工・美術準備室も個の部屋から、もっと開かれた場になると良いと感じました
- 創造性は美術教育の中でなくても出来るのか？日々の中での発見や、行動、それらも含めて考えていく必要があるように思いました。
- 表現する思考のプロセスは、問題解決プロセスにも似ていて、参考になった。一方、それを安心して実行できる環境の整備が重要である点は、頷けるものだった。

6. 中村隆紀氏の講演について

- 生活者視点で常識を疑ってみる、感銘しました。常識とされているものを仕事目線でつくりあげていないか考えさせられた。
- 今後活かしていけそうな内容で良かった
- 「暗黙知」という言葉の定義がやや難しい気がしたが、身体性・感性を実践することに着眼した点はなるほどと思った。多様な人々と協働すること、且つ手を動かすことで新たな発想が生まれそう
- 身体性・粘着性・脱殻性という柱を、発想や創造性を高めるための指導にどう組み込んでいくか考えていきたいと思った
- これから実行レベルで考えていきます
- とても「なるほど」と感動。大人の創造性、子どもの創造性、近いようでどこか違うということを考えていました。
- 教師へのメッセージ、大事なことを伝えてくださいました。「手や文字で考える」これを基本に、4月からの授業に活かせるよう、工夫していきたいと思いました。
- 眼からウロコでした。特別支援学級にて勤務していますが、全人格でクリエイトしていくこと参考になりました。
- 創造性教育の新しい切り口をみせていただいた。面白かった。
- 日常から発想体質を鍛える、参考になりました
- 日頃の生活の中に創造活動の基がたくさんある。新たな視点をいただけて良かった
- 日常の中で粘り強く考えることの大切さを改めて感じると共に、そのような姿を次世代に見せていかないといけないと思いました。まず、自分のライフモデルを考えます。
- 教育関係者として、「半端にほめてほしくない」という言葉には、確かにその通りだろうと思いました。本当は子どもたち、若者たちに身体性を重視した、創造的な体験や経験を積ませ、教師自身も中途半端じゃなく、粘り強く向き合うべきだと強く思いました
- 授業のヒントをたくさんいただきました。いまは頭の中でぐるぐる考えている状態ですが、しばらくはこの状態を楽しみたいと思います
- 学校機関 ⇔ 企業の関係性、相関性がもっと強くなるとどうなるのかと、いろいろ想像しながら聴いていました。
- 終盤の「育成放棄」というくだりに、ドキリとさせられました
- 創造的粘着性は美術教育にも必要だと思った
- 発想力のトレーニングについて、どのように育てているのかがわかった

- 「発想体質」。美術関係でない教員もぜひ聴いておくべきだと思いました。
- 「美術教育のエビデンスがない。弱い」ということを指摘され、そのあたりを答えられるような授業や研究をしなくてはと思いつつ、日頃モヤモヤしたところが中村さんのお話してだいぶ整理できました。ありがとうございます。
- 論理的かつスマートな内容でありながら、身近な生活力を向上させるヒントがあった
- ライフモデルの地に足がついた像の構築が必要だと思えた
- 「発想体質をつくる」このキーワードを今後の授業に活かす大切さを実感
- 適当にほめてしまっていることが、やはり現場では多くみられるし、自分もその一人。また、学生本人のことなのに、効率やスピードを求めるあまり、こちらが“やってあげる”そんなことも。先生ってもう少し厄介でもいいのではと感じました。
- トップ企業の仕事の仕方がこうなっているのかと、良い知る機会になりました
- 効率化を求める時代の中、「何度も何度も考え抜く。練って練って創り直す」ことは大切だと共感できる。頭や理屈で覚えるだけでなく、身体で覚えることのできる美術授業を大切にしていきたいと改めて思った
- 殻を脱がせるのが教育の原点、良い言葉だと思います。
- 身体性の重視は、考える力に重要なことと考えていたのでお話に引き込まれました。小泉先生の赤ちゃんから発達していく流れと通じていて、赤ちゃんは自分で手をのばし、口に入れて確かめ、体験を通して学んでいく。でも大人や固定概念に縛られた人は、まず「自分の殻を壊す（赤ちゃんに殻はない）」、そしてまた赤ちゃんのように「挑む（手をのばす）」そういうことが大切だと感じました。
- 「教える⇒壊す」という部分は強く共感します。また「育てる⇒挑む」という点は納得できました
- 何度も何度も考え抜くことが大事だとわかっているけど、時間的な余裕のない学校現場。ゆえに、中途半端な作品を仕上げてもらってもそれなりに評価してしまう。安易な評価（妥協した評価）が子どもたちに上辺だけの取組みで良いことを助長する。プライドだけ高く中身の無い大人を量産していることを言葉にさせていただき、とても心に刺さりました。
- 自分の考え方、ものの見方は確かに「職」が影響していると感じます。自分の本質を知るのには大事だと思い、興味深かった。
- 全てに感動しました。子育て中の自分のモヤモヤも少し晴れたように感じます
- 右脳と左脳、古い皮質と新しい皮質、すべてをつなげていくことが創造性につながるのだと全ての話しがつながった
- 「生活者発想」・「ライフモデル」大変参考になった

- 日常の風景から様々な発想を見出すことが、新しい考え方に繋がるのだと感じた
- 社会の変化に対応できる創造性の根本を育むことの重要性を感じた
- 身体性・創造的粘着性・定型・役割の脱殻、どれも人の身体なしには出来ないことと、確かに思いました。人が人としてどう生きていくべきか、豊かな生活とは、教育の役割・必要性を考えていかなければと思いました。
- 聴いてきてわかりやすかった。よ〜く考え、問題を身近から見つけ、解決して行って、自分も周りもハッピーに豊かに生きていきたいと思った。なあなあでは新しいものは生まれれないと思った。
- いかに自分の思考が固まっていたか、今後の自分の考え方を変えようと思った
- 社会全体が「発想体質化」することに大賛成。アクティブラーニングの教育スタイルが有効だと思う。思春期ほど大事な？
- 社会人プログラムでも、子どもたちと同じようなクリエイティビティが秘められていることが驚きであり、また人は一生学べるのだと思った。仕事の進め方も、枠を決めるのではなく、逆の視点だったり、思考から入るというのもあるんですね。適当に褒めるな！という言葉も心に残りました。
- 確かに大人が粘らなくなった。自戒を込めて。

7. パネルディスカッションについて

- 「粘り」・「泥沼」・「好きだから」・「情熱」創造性の源だとしたら、それをどう育むか。「感動体験？」・「触れること」・「身体感覚」・・・。
- 小泉先生の「記号は人間の思考効率を増す」そしてそれが、文法を手に入れるもとなる。それは人間だけ。しかしそれはクリエイティブではなく、もっと意識下にあるものが築いたとの話は面白かった。
- 講演内容を掘り下げた話が聴けて良かった（講演内容を補完できていた）
- 何のための教育なのか、何が幸せなのか。いろいろと考えさせられました
- それぞれの領域から教育・創造性の重要なポイントを裏打ちしていて理解が深まった
- 乳児時代の基本的な信頼関係（愛着）が創造性にもつながっていくのかと驚いた
- 小泉先生が「化石」写真を自分で準備しているとのお話は素晴らしいと思った
- 三人の考え方から、充実した連携・統合の方向性が見出された
- 「身体性」が一つのテーマになって浮き彫りにされ、興味深かった

- 全体の話を聴いていて、創造には「遊び」が重要だと感じた
- 「発見」・「出会い」・「情熱」・「愛情」・「しつこさ」・「風土」・「気づき」などなど創造性の要素を再認識した
- 大学で留学生に対する日本語教育をしていますが、彼らの発想の豊かさに感心することが多々あります。いつも感じるのは、どんな教育を受けて来たんだろうということ。幼稚園から高校に至るまでの教育のあり方を再考する必要があるのではと思っています
- 中村さんのお話しがわかりやすかった。ネット検索で発見したものは本当の発見ではない。同感です。
- 学校、企業の枠を超え、問題になっていることは同じだと感じた。未来に向けて日本の創造性を育む教育はどうあるべきなのか、学校教育だけで行うべきことなのかと思った
- 進行役のモチベーションと進行の仕方に改善の余地があると感じた
- 全てのセッションの中で一番おもしろかった

8. 今回参加してみての感想は？

- 創造性という抽象度が高く、共通理解がない状況での話で、まとまりのないものになるのでは思ったが、皆さんそれぞれのアプローチで考え、実践しており、また共通項が多く、各地域、場所にて今後さまざまな取り組みが期待されると感じた
- 12時半からの開始でも足りないくらいの内容でした。ぜひ参観者にまた今日の中身が有料でもいいので、報告があればと思いました
- 素晴らしい講師の皆様方のそれぞれの専門的な立場からのお話をいただき、感謝です。創造性という言葉、簡単に使うことを慎重にと感じました
- 普段聴くことのできない話で刺激になりました。最初の“指回し”（注）も。
 （注）開演前に、OAC事務局長が「指を真上に上げさせ、時計回りでゆっくり回して降ろしてきてください。見つめるのは指先だけ。降ろしてきて胸のところでも回してください。さて、どっち回転になってますか？（視点を変えると見方が変わる）ゲームでした。
- 是非次回も参加したい
- 中村さん（企業の方）のお話しが同えて新鮮でよかった
- 講演内容は良かったのですが、聴衆・スタッフによるカメラ撮影（フラッシュ・シャッター音）が目障り、耳障りでした。
- 多くのことに気付かされた

- 現場の声から専門的な声まで、よかった
- 質問された方それぞれの視点、状況からの問はどれも参考になった
- 現場の方々からの質問。お願い、非常に共感することがあった。これから教員になるにあたり、社会の実情などを感じ、とてもよかったです。
- テーブルを囲む形で参加された方々と話してみたかった
- パネラー以外の情報や懇親会、名刺交換などフリーで話せる機会があってもいいと思う
- 休憩なしの講演 3 時間はちょっと疲れます
- 暗黙知の重要性の再認識
- 美術・教育関係のみならず、他分野の方の話しも聴けて楽しかった
- 学校・企業・研究と改めて考えさせられることが多く、参加して良かった。このような機会をまたつくっていただくと嬉しいです
- 毎回貴重な時間を過ごさせていただいています。次回も楽しみです
- 前はもう少し講演者の幅が広がった。教育関係者をもう少し講演者に入れてほしい
- いま社会で問題になっていることの始まりや、解決策は教育にあると思いました
- 美術・図工・音楽教育の切り口を変えていく必要があるのかもしれない。変化が無いので教育者が変わらない。なので子どもたちも興味が湧かない。そんなことを考えました
- 3名の先生方、視点やフィルターは違うものの、根本的なものが共通で、感銘を受けた
- 大変興味深かった。もっと多くの社員たちに聴かせてあげたかった。次回は必ず参加人数を増やします。
- 今日のような内容を全国全員に広められたらと思いました。ぜひその術を考えていただけたらと思いました。
- 社会は変わるのでしょうか。少数でも自分の身近なところから変えるしかないのだと思いました

9. 今後どのようなシンポジウムや講演者の方を望みますか？

- 現在の学校教育や社会からみた教育をどうすべきなのか、など議論してみたい
- アイデア創出や、創造技法の専門家にお話しを伺ってみたい
- ゆとり世代の育成や接し方

- いまの時代の働き方、生き方について
- 青年期におけるアート・創造性についてのお話し
- 本シンポジウムは、継続性が大切かと思えます。今後も開催ください。
- ITの発達、AIの進化、IoTの深化が子どもたちの創造性にどう関わるか
- 現場の第一線で、何かを改善しようと身体をはっているひとの実例
- アート・人・教育
- 文部科学省の方のお話し
- 実践現場の知見を語れる方を講演者に
- 家族という視点から、「家庭の中の創造性シンポジウム」
- 最新の「脳科学」と「教育心理学」の接点など
- 自分と違う立場（図工・美術の先生以外）のクリエイティブな仕事に携わっている方のお話しを聴いてみたい
- まずは三回目の開催に感謝します。継続することは有難いです。60分の講演者×3名の構成よりは、90分×2名や、午前10時頃からスタートで90分×3名としたほうが内容も深まるのでは
- 今回のお三方のように、人（特に若者）が①生まれて ② 学校に通い ③社会人になる。そんな流れで、講演者を選定していただくと学校関係者としてはありがたいです
- 美術教育以外の視点からの話し
- 今回のように未来社会をイメージしながら美術教育について考えることができるシンポジウム
- 脳科学と人文学の融合
- 芸術教育もいいが、芸術科そのもののお話しもきいてみたい
- 我々教員からすると、民間の第一線におられる先駆者の方のお話しが必要です。生徒等に、何故と問われた時に、安心した答えをいくつか用意しておかなければといけませんね。痛感しています。
- 中村さんのお話しを来年も聴きたいです。
- 水島先生が紹介した映画、羽仁進監督の「絵を描く子どもたち」ぜひ観たい！
- 異業種、異職種、混合の話し合いは面白いと思えます。繰返しまたこのシンポジウムを希望します。

皆さまのご協力、ありがとうございました。

お気軽にお問い合わせください。

公益社団法人 日本広告制作協会（OAC）

事務局

〒104-0061

東京都中央区銀座 1-14-7 銀座吉澤ビル9F

TEL 03-3561-1220 / FAX 03-3561-1221

Mail info@oac.or.jp

Web <http://www.oac.or.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/creativeOAC/>